

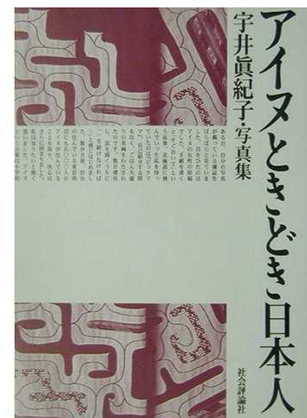
「地球の力～アイヌの祈りと暮らし」

写真家 宇井眞紀子 氏

パフォーマンスグループ A I N U R E B E L S (アイヌレブルズ)

日時：平成 20 年 9 月 6 日 (土)

会場：阿佐谷地域区民センター



第 1 部 スライドと講演「東京で暮らすアイヌの人たち」

宇井眞紀子氏

始めに、自己紹介

これから皆さんに見ていただきます写真は「アイヌときどき日本人」という写真集の中のものです。1992年から2001年までの記録となっています。なぜアイヌの人たちの写真を取り始めたのかということをお話してからスライド写真をお見せしていきたくと思います。

私は千葉県生れの東京育ちで、自分の生活の中にはアイヌ民族の方々との接点みたいなものはずっとありませんでした。ただ小学生の時から、少しだけアイヌという言葉が気にはなっていましたが、アイヌの人の友人がいるとか、アイヌの人たちのことに関わって何かやるっていうことはないまま、大人になりました。一番大きなきっかけが結婚した時で、相手の人が北海道の静内という場所で育った人でした。そこはアイヌの英雄のシャクシャインで有名な所で、すごくアイヌの人たちがたくさん住んでいる町です。彼から子どもの時にはアイヌの人たちとの交流がこうだった、周りの大人たちの反応はこうだったなど話を聞きました。彼はアイヌではなくて和人...これからお話をしていくにあたって、アイヌの人と日本の中の大多数である日本人を区別するため、和人という言葉を使わせて頂きますが...彼は和人で、その時に自分自身はアイヌの人を差別したという思いはないそうです。ですが彼の周りにいた大人たちの会話を聞いていると、明らかに差別があったという話を聞いて、私はすごくショックを受けました。差別とかそういう話は過去の話だと思っていましたから。

アイヌとのかかわり

自分の身近にいる一番親しい人から差別をしていたという話を聞いて、ものすごく考えさせられました。改めて、アイヌの人たちの歴史や現状などを知りたいなと思い、自分でアイヌ関係の書籍などを讀んだり、あと北海道からアイヌの人が講演に来るという機会があったらそれを聞きに行ったりと、そういうことを始めました。そうしていると、北海道の日高地方に、アイヌの聖地である二風谷という所があるのですが、そこを潰してダムができるという話を知り、その前にどうしてもそこに行ってみたくと思いました。私はいつもフリーランスのカメラマンとして、いろいろな雑誌の編集部から依頼を受けたものを撮影して、日々の生計を立てていましたが、そのころ私が仕事をした雑誌が自宅に送られてき

たのを見ていたら、雑誌の中に二風谷在住のアイヌの女性アシリ・レラさんという人が、二風谷ダムに反対するということを自分の言葉で書いてらっしゃいました。それを読んで絶対この人に会いたい思い、手紙を出して彼女を訪ねました。一番、最初にアイヌの人との接点が私にできた時です。それが1992年ですけれども、彼女との接点ができて以来、月に一回ぐらい、毎月のように二風谷に通い、いろいろ教えてもらいながら撮影をしていました。その中で東京周辺に5千人ぐらいのアイヌの人が住んでいるというのを知り、自分が住んでいる東京周辺のアイヌの方々との接点がどんどん濃くなっていきました。そこから追っかけみたい、ずっと撮影をさせていただいて先程お見せした「アイヌときどき日本人」という写真集ができたわけです。

写真集「アイヌ時々日本人」からスライドで一部をご紹介します

・ 1枚目：98年6月 町田市 アイヌの結婚式

1998年の6月に、東京都の町田市で撮影したもので、前列の真ん中二人が新郎の結城幸司さんと、新婦の宇佐志穂さんです。アイヌ式の結婚式を挙げた時の様子です。先程私は、東京周辺に5千人ぐらいのアイヌの人がいるというお話をしましたが、1989年の東京都の調査では東京都には2千7百人ぐらいのアイヌの人がいるという数字が出ています。そこから推し量ると、関東には5千人ぐらいの人が少なくとも住んでいるだろうということで、5千人という数が出ています。当時、この結婚式のよう、一堂にアイヌの人がたくさん集まるという機会は東京では滅多にありませんでした。やはり結婚式ということがあって、たくさんの人たちがお祝いにやってきました。

・ 2枚目：手作り結婚式の二人

結婚式はすごく手作りな感じのもので、もちろんアイヌ式の結婚式ですけども、その後にお色直しというか、ウエディングドレス姿というのもあってその時の写真です。

・ 3枚目：伝統的な民族衣装で盛装した新郎新婦

こちらは伝統的なアイヌのアットゥシというオヒョウの樹皮で作った着物に身を包んだ新郎の幸司さん。タマサイは新婦の胸のところに見える大きな首飾りです。

・ 4枚目：新婦と母

これは新婦のお母さんのタミエさんと志穂さんがすごく喜んでいる様子です。志穂さんは小さい時から、お母さんの後についてアイヌの歌や踊りを自然に覚えていったということです。新郎新婦のお二人は7歳の時から東京に住んでいて、今現在は引っ越されて、札幌の方を拠点に活動していらっしゃいます。

・ 5枚目：アイヌの結婚式の様子

結婚式はカムイノミという神への祈りから始まります。結婚式の儀式が終わった後に、アイヌの伝統的な踊り、剣の舞を踊っているところです。日本式だと三三九度をしますが、アイヌの結婚式というのは、山盛りのご飯を二人で分けあって食べ、全部残さず食べられると夫婦として認められます。儀式が終わると、誰からともなくみんな立ち上がって、踊りとかが始まって、みんなで喜びを分かち合いました。

・ 6 枚目：長女舞（マウ）ちゃん誕生

これはお二人の1人目のお子さんが生れた時の写真です。長女の舞ちゃん。マウというのはアイヌ語で風という意味だそうです。

・ 7 枚目：舞を抱き上げる夫

これは舞ちゃんを抱き上げるお父さんの幸司さんです。今では舞ちゃんにはじまり、陸くん、泰（タイ）くん、智世（チセ）ちゃんという4人のお子さんがいらっしゃいます。みんな、アイヌ語の名前です。幸司さんたちは2000年ぐらいに引っ越されて、札幌でアイヌの仲間たちと芸術家集団のアイヌアートプロジェクトというのを立ち上げ、アート作品を作ったりとか、歌や踊りの公演をしたりとか、そのような活動をされています。

・ 8 枚目：五日市に建築した伝統茅葺の家〔五分の一モデル〕

これは五日市で撮ったものです。奥の方に見えるのが茅葺きの伝統的なアイヌの家です。これは実際の伝統的な家の5分の1ぐらいの大きさで造ったもので、手前の方に大きく映っていらっしゃる方が東京アイヌ協会の会長の浦川治造さんです。彼が是非、みんなが集まっているいろいろな場所、カムイノミという先程言った神への祈りができる場所、そういうのをつくりたいということで五日市にこの茅葺きのチセ（アイヌ語で“家”の意味）を建てました。ただ、その後何年間かはここに建てたのですけれども、より大規模なアイヌ文化の里づくりを目指して取り壊されました。

・ 9 枚目：会長夫妻

今現在、浦川治造さんは、千葉県にカムイミンタラ（アイヌ語で“神々の遊ぶ庭”という意味）という施設をつくって、そちらの方を拠点に活動されています。写真に写るのは治造さんと奥様の文子さんです。治造さんは北海道の浦河町出身です。10歳までは伝統的な茅葺きの家に住んでいたそうです。それで、治造さんが言うには、子どもの頃のチセを復元して、みんなでそこに集まりたい、そういう思いで5分の1のチセを造ったということでした。

・ 10 枚目：アイヌの伝統料理のお店を出すための募金活動の様子

首都圏には治造さんが会長をやっている東京アイヌ協会と、レラの会、関東ウタリ会、ペウレウタイの会というアイヌの人たちの会が4つあります。レラの会というグループの人たちがレラ・チセというアイヌ料理の店を出したいということで、新宿の駅前で、カンパ活動をしているところです。

なぜアイヌ料理の店なのかというと、みんながアイヌとして気楽にいられる拠り所となる場所がほしいというのがまず一番最初の希望でした。アイヌ会館とか、アイヌセンターとか、アイヌを名乗っていないアイヌの人が今でもたくさんいらっしゃるのです。それでアイヌ料理店にすれば、お客さんとして、自分がアイヌと名乗っていない人でも気楽に立ち寄れるんじゃないか、ということでアイヌ料理店を出そうということになりました。

・ 11 枚目：豊年踊り - シッチョチヨイ

アイヌ料理のお店を出したいということで、みんなに呼びかけて集会をした時に、アイヌの伝統的な踊りのシッチョチヨイという豊年踊りを踊っている様子です。

・ 12 枚目：レラ・チセ（アイヌ語で“風の家”の意味）オープン

レラの会の人たちは、歌や踊り、料理などの文化を通じて、広くアイヌのことを伝える活動をしているグループです。それで1994年にレラ・チセはオープンすることができました。最初に、早稲田にお店をたて、その後2000年に中野の方に引っ越しました。今は中野と新井薬師駅のちょうど中間ぐらいのところにレラ・チセというアイヌ料理店をやっていますので、ぜひ皆さん行ってみてください。

・ 13 枚目：店が成功するように... 神への祈り

これはお店を中野に移転する前日にカムイノミ、先程から何度も出ていますが、神への祈りの儀式をしているところです。今までの感謝とこれからお店を中野に移転して上手くいくようにということで祈っている様子です。



・ 14 枚目：地鎮祭の様子

これは中野店の地鎮祭をやっている時の様子です。額に巻いているのはマタンブシというはちまきでアイヌ模様の刺繍がしてあります。そのマタンブシが曲がってない？大丈夫？という感じで私に聞いている様子を写真に納めたものです。

・ 15 枚目：中野レラ・チセ店内

新しく移転した中野のレラ・チセの店内ですが、囲炉裏があります。アイヌ民族のカムイノミという儀式は火が大切なんです。火に向かって祈るので、店内でもちゃんとカムイノミの儀式ができるようになっています。囲炉裏を切って儀式ができるようなスペースを作りました。この写真はオープンの2日前のものですが、本当に間に合うのかなと見ているこっちが心配してしまいました。アイヌの人たちって全員がゆったりしているというか、せかせかしてないので見ているとすごく焦ってしまいます。

・ 16 枚目、17 枚目：店内で新築のお祝い 矢作りと矢を射る儀式

これは新築祝いのチセノミという儀式でその時に矢を放ちます。その時に放つ矢を蓬（よもぎ）で作っている様子です。これを放って新築祝いをします。魔よけと魂入れの意味があるということです。昔の家は全部茅葺きだったので、屋根の隅に打てばよかった。今の家はそうはいかないので、矢を放てるように、茅（かや）をつけています。今のアイヌの人たちの暮らしは、日常生活を見る限りでは、いつも伝統的な衣装を着ているわけではありませんし、普通の日本人、和人とほとんど変わらないような暮らしぶりに見えます。和人の暮らしも、明治時代とは全然違うわけで、アイヌの人たちの文化や暮らしも、当然時代とともに変化していっています。アイヌの文化ですから、アイヌの人たち自身が決めていけばいいことだと私は思います。でも自分自身で決められなかった歴史があって、強制的に日本人にさせられた同化政策というものが日本政府によって明治時代以降ずっと行われてきました。

・ 18 枚目：新しい店へ引越し

この写真に写っているのは、星野工（ホシノタクミ）さん。新しいレラ・チセに引っ越しする前日ぐらいたったものですから、みんな徹夜の作業が続いてかなり無精ヒゲが生えています。普段はもうちょっと二枚目ですね。彼は木彫りをやったり刺繍をやったり、特に木彫りで今活躍されています。

・ 19 枚目：木彫りのニマ（器づくり）

これはニマという器を作っている写真です。差別があったり、アイヌ文化が否定されたりとかがあって、アイヌの文化をなかなか親から子に伝えることができなかつた歴史があります。この木彫り一つにしてもやはりそうで、彼は親から学ぶのではなく、アイヌの昔の民具などが載っている本を見たり、博物館に実物を見に行ったりして、一生懸命自分なりに勉強していると言っていました。

・ 20 枚目・ 21 枚目：工房内

これは星野工さんの工房で、彼が一生懸命木彫りをしている様子です。
木彫りのあいまに、何を思っているのかなど。

・ 22 枚目：レラの会会長の仕事の様子

これは今現在のレラの会会長、長谷川修さんです。彼は山梨県に住んでいらっしゃるのですが、これは普段の仕事の様子です。橋桁の工事現場に撮影に行かせてもらいました。

・ 23 枚目、 24 枚目：会長の 2 人の娘たち

これは長谷川修さんの二人の娘さんです。長谷川さんはある時まで、アイヌということの名乗っていませんでしたから、彼女たちは 10 代の半ばぐらいまで自分がアイヌの血を引いていることを全然知らずに育ったそうです。突然、93 年に長谷川修さんがアイヌ宣言をされまして、突然彼女らもアイヌになったわけですね。彼女たちはそれから、自分たち自身のことを考え始めて、アイヌ文化について一生懸命学び、今、お二人ともすごく活躍されています。

・ 25 枚目：カラフト・トンコリ（弦楽器）奏者

これは先程出ていました木彫りをしていた、星野工さんの弟さんで、居壁太さん。トンコリは、カラフトアイヌの楽器です。トンコリ奏者として、今いろんな所で演奏活動をしています。このトンコリはお兄さんの星野工さんが作ったものですが、最近は彼自身で作ったトンコリも演奏しています。

・ 26 枚目：レラの会前会長

先ほどお話したとおり、現在のレラの会会長は長谷川さんですが、この写真を撮った当時は佐藤タツエさんという方が会長をされていました。タツエさんのところにはすごくいろんな人が訪ねてきます。自分が顔見知りではないアイヌの人たちもたくさん訪ねてくるそうです。全然知らない方でもとにかくお腹いっぱいご飯を食べさせて面倒みるという、そんな方でした。タツエさんに限らず、とにかくお客がきたらお腹いっぱい食べさせることがアイヌの人たちの伝統です。私がタツエさんの所に行ったとき、お腹いっぱいだからって言っても、「まあ食べ、まあ食べ」と言ってたくさんごちそうになりました。他の人のところに行っても、大体まずはご飯を食べるところから始まります。残念ですが、タツエさんは 2003 年に亡くなりました。

・ 27 枚目：トノト（酒）作りの名人

トノトはカムイノミの儀式の時に使うお酒ですが、お酒造りの名人の居壁リセ子さんです。先程楽器トンコリを持っていた太さんのお母さんです。残念ですが、彼女もこの撮影をした後に、亡くなっています。

・ 28 枚目：レラ・チセ店内で寛ぐ

これは先ほどお話したアイヌ料理店レラ・チセの店内で、寛いでいる様子です。フチというのはアイヌ語で尊敬されるおばあさんってことです。一生懸命フチの肩もみをしているところです。

・ 29 枚目：“鶴の舞”の練習風景

これはアイヌの伝統的な踊りの“鶴の舞”を控室で練習しているところです。この踊りはもしかしたら、観光地などでご覧になられたことがあるかもしれません。

・ 30 枚目：ムックリ（口琴）演奏

伝統的な楽器、口琴、ムックリを演奏している様子です。後で、AINU REBELS（アイヌレブルズ）の皆さんが実際に聞かせてくれると思います。

・ 31 枚目：多摩川河川敷 - カミノミの儀式

この場所は多摩川の河川敷です。今では東京のアイヌの人たちも集まってカミノミという儀式をやる機会が大分増えてきました。当時（1999年）は、なかなか東京のアイヌの人たちだけで、カミノミの儀式をするのが難しくて、北海道から詳しい人を呼んで、実際にカミノミの儀式をやりながら一生懸命みんなで勉強していました。これは祭壇に飾るイナウ（木幣）というもので、それを立てている様子です。



・ 32 枚目：カミノミの様子

後ろの方には河川敷で普通にキャンプをしている日本人が映っています。8月に儀式を行いました。私もアイヌの伝統的な着物を貸していただいて、ちゃんと正装して撮影したのですが、さすがに8月に着る着物は、私だけではなく、皆さん暑かったと思います。

・ 33 枚目：アイヌ文化交流センターで木彫り細工の練習

これはアイヌ文化交流センターというところで、木彫りを学んでいるところです。

・ 34 枚目：世田谷の小学校でアイヌ文化を学ぶ総合学習

和光小学校という小学校が世田谷にあります。そこは一生懸命アイヌの文化を学ぶということをやっています。これは「いちょうまつり」という行事の時の子どもたちです。こちらに映っているのが広尾正さんというアイヌの踊りの名手で、一生懸命、子どもたちにアイヌの踊りを教えています。子どもたちは真剣なまなざしでアイヌの歌や踊りを教わっていました。

・ 35 枚目：埼玉県の保育園 アイヌの歌を習う

こちらは別の所で、いなほ保育園というところです。すごく熱心にアイヌの文化を学んでいます。ここでは、この広尾正さんはすごいアイドルで、子どもたちの人気の的になっています。ある子どもが入院したとき、広尾正さんの写真をベッドの脇に貼って頑張ったというぐらいのアイドルです。

・ 36枚目、37枚目：琉球とアイヌ民族の祭典 チャランケ祭

これは、中野駅前で、毎年11月の初めに行われるチャランケ祭の写真です。これは沖縄とアイヌの出会いから始まった祭りです。今年も開催されます。琉球の文化とアイヌの文化がこのように一緒になって、踊りを踊ったりしています。

・ 38枚目：1996年、渋谷のデモ行進 - 旧土人法廃止

これは渋谷の駅前ですが、みんなでデモ行進をしているところです。この横断幕に、「旧土人保護法廃止 アイヌ新法制定」と書いてありますが、これは1996年に撮影したものです。このような法律を初めて聞く方もいらっしゃると思いますが、旧土人保護法とは、名前も内容も全部差別的な法律で、たった数年前の1997年まで残っていた法律です。

・ 39枚目：デモ行進 - アイヌ新法制定

それからアイヌ文化振興法というのが1997年に施行され、それに伴って旧土人保護法は廃止されました。しかしアイヌ文化振興法というのもアイヌの文化だけに限った法律です。この写真はその法律が制定された後に行われたデモ行進の写真で、横断幕には「アイヌ文化振興法では足りないものがたくさんあるよ」と書いてあります。この時にはまだ日本の政府はアイヌ民族を先住民族として、認めていませんでした。

・ 40枚目：佐藤タツエさん “アイヌはここにいる”

こちらは先程の佐藤タツエさん、「父ちゃんをほったらかしにして、アイヌの運動をやってる。よく父ちゃんは耐えているなぁと思うよ。」と言っていました。強く印象に残ったのは、「日本政府が認めようと認めまいと、アイヌはこうしているんだ、私たちはここにいるよ。」という言葉です。

・ 41枚目：アイヌの作品展とファッションショー

この写真の後ろの方にかかっているのは、アイヌの印であるイトッパってものを集めてタペストリーにしたもので、この作品を作ったのは宇梶静江さんというアイヌの女性です。また彼女が作った作品で、ファッションショーが行われました。モデルをつとめたのはみんなプロのモデルさんではなくて、アイヌの若い子もおじいちゃんもおばあちゃんもみんなモデルになって、ファッションショーをやりました。写真は以上でおわりです。

質疑の要約

Q：アイヌの伝統的な文化や儀式についてもっと詳しく教えてください。

まずイトッパについてですが、イトッパは家紋というか、家の印みたいなもので、カムイノミの儀式の時に使うヘラ状のものがあって、その裏に彫ったりして使うものです。アイヌ模様の意味は魔よけだと思います。だから袖口や裾など悪いものが入ってきそうなところに特に重点的に刺繍をするというふうに聞きました。

有名な儀式ですと、イオマンテという熊の魂を送る儀式があり、ご存知の方がいらっしゃるかもしれませんが、熊だけではなくて、鹿でも何でも魂を送るそうです。私自身は実際に見たことはないですが...。去年イオマンテの儀式は禁止を解かれました。それまでは一応禁止だったとのこと。イオマンテだけじゃなくて、アイヌの文化に対して、ものすごく多くの禁止があって、それは野蛮だといった勝手な理由によるものでした。もともと北海道には後から和人が来たわけです。もともと住んでいたのはアイヌなので地名は全部アイヌ語です。そのアイヌ語に勝手にそれと同じ読みの漢字がつけられました。

実際のアイヌ語の意味とは全然違う意味の漢字が当てはめられてしまっているため、意味の全く異なったものとなっています。

Q：どのような経緯でアイヌの人たち取材するようになったのですか？

初めてお会いしたのは二風谷のアシリ・レラさんですが、その時は取材させてくださいというお願いではなく、とにかく二風谷に行きたいと思っていました。ですから、「私はアイヌについて何も知らないのですが、アイヌのことを知りたい。」というお手紙を出しました。そしたら、「おいで。」というお返事だったので…。

行ってからすぐには撮影をせず、まずはいろんなこと教えてもらいました。薬草のことを教えてもらったりとか、一緒に山菜取りに行ったりとか、そんなことをしながらなんとなく撮影は始まっていったという感じでした。その後やや遅れて東京のアイヌの人たちの存在を知った後、「おいでおいでっ」という形で迎え入れてくれました。私がすごくラッキーだったと思うのは、実はきっかけとなったのは結婚した相手の話でしたが、アイヌの撮影を始めた時にはもう離婚してしまっていて、6歳の娘と二人で暮らしていたんですね。だから、アイヌの取材に北海道に行くとか、長期で移動する時は全部娘を同行させていました。やっぱり子連れであるってということで、すごく受け入れられた部分もあるのではないかなと思います。もう一冊私はこの「アシリ・レラ」という写真集も出しているのですが、こちらは最初にお会いしたアシリ・レラさんという方を二風谷で撮影したものです。

こちら実は出版社が倒産してしまっていて、普通の書店では今流通していません。もしアイヌのことに興味があるということでしたら、デイズジャパンという雑誌(08年の2月号)があります。これから演出をしてくださる、AINU REBELS(アイヌレブルズ)の酒井美直さんが表紙になっています。酒井美直さんが文章を書き、写真は私が担当しています。今年の8月号でもアイヌ民族についての特集をしています。まだ今年出版されたばかりで、バックナンバー等も手に入ると思います。もし興味をお持ちでしたら、見てください。

内容は、講演を行った2008年9月6日現在のものです。

第2部 「アイヌの伝統的な歌と踊りの実演」

AINU REBELS(アイヌレブルズ)

始めに、自己紹介(酒井美直さんの進行)

私たちはアイヌレブルズ、これはよくレベルズって言われますが、レベルズというふうに読みます。今日は3人で来ました。私たちは2006年の夏に結成したグループで、みんなほぼ北海道出身です。けれども、今は首都圏に在住してしまっていて、アイヌの伝統的な歌や踊りを自分たちで学びながら、公演を重ねています。アイヌレブルズのメンバーは、昔はやはり自分がアイヌということに恥じていて、自分たちの文化に対しても何も関心や興味がありませんでした。しかし、いろいろな経験を通して、今はアイヌということに誇りを持って活動しています。できるだけ多くの人たちにアイヌの姿を見てもらい、日本の中にアイヌ文化というものをもっと広げていきたい、なによりも若いアイヌの仲間たちに自分たちの姿を見てもらうことで何かの影響を与えられたら…そんな思いで作ったグループです。ですから私たちは若い人に受け入れられやすいように、楽しく、かっこよくというのをモットーに、皆さんに楽しんでいただいき、かっこいいなと思ってもらえるようなグループになりたいと思っています。

今は、ヒップホップや、ロックといったポップなビートを踊りに取り入れたり、アイヌの伝統音楽ではないオリジナルの歌を作ったり、そのような挑戦もしています。今日はアイヌの伝統的な歌や踊りを中心にお見せしたいと思います。

宇井真紀子さんとの出会い

宇井さんは、私が18歳の時に上京してから何年ものあいだ、写真をずっと撮っていただいています。いつもたくさん撮った写真をくださる、とても丁寧な方です。宇井さんが撮ったとてもいい写真がアイヌレブルズのホームページのギャラリー欄で見られますので、もしよければ皆さんご覧ください。

アイヌレブルズのパフォーマンス

・アイヌの楽器 ムックリ（口琴）の演奏

最初にアイヌの楽器を皆さんにお聞かせしたいと思います。まずアイヌの口琴ですね、口の琴と書いて口琴、ムックリといいます。これを皆さんにお聞かせしたいと思います。これは一つ一つ手作りで作られ、竹でできていて、口の中で響鳴させて音を鳴らすものです。息の出し方や、喉を動かしたり、舌を動かしたりして音を鳴らせるので、一人一人音が異なります。

・ウコウク（輪唱）

では次にいくつか歌を披露したいと思います。ウコウクという輪唱の歌になります。「カエルの歌」のようにどんだんずれて歌っていくのですが、昔は儀式の後に女性たちが集まって座り、床を叩きながら歌っていたそうです。次々に歌が変わって行って、それにみんながついてって楽しむというふうに歌われていたものです。

・シッチョチョイ（農耕と収穫を喜ぶ歌）

次はシッチョチョイという種まきの踊りをやります。これは農耕の踊りですが、種をまいて、土をかけて、耕して、収穫して、お団子を作って、最後にみんなで喜ぶという一連の動作を表現した踊りです。

・サルキウシナイ

次はサルキウシナイという十勝地方に伝わる踊りをやります。これはコタン沿いの川沿いに葦の葉が川沿いに生えて揺れている様子を表現した踊りです。

・ク・リムセ（弓の舞）

次は男性の躍りで、ク・リムセです。クが弓で、リムセが踊り。これは狩りに出かけた男性が鳥を射ろうとしたが、その鳥があまりに美しく空を舞っていて、ついに矢を射ることが出来なかったという様子を表現した踊りと言われています。

・サロルン・リムセ（鶴の舞）

皆さんにお見せする踊りで最後になりますが、サロルン・リムセ。鶴の舞を踊ります。

・ヘクリサラリ（盆獲りの踊り）

今度は皆さんと一緒に踊りを楽しみたいと思います。まずは私たちの踊りを見て、それからよろしければ一緒に踊ってください。最初にヘクリサラリという盆獲りの踊りをやります。これは遊び踊りで、余興としてやられています。このお盆を2人で取り合って、落としたら負けという遊びです。

・バッタキウポポ

次はですね、バッタキウポポです。バッタの踊りを皆さんとやりたいと思います。昔、バッタの大群が十勝地方を襲って、作物を全部荒らしていきました。そのような話を後世に残すということで、バッタの踊りがつくられたと言われていています。皆さんもバッタのように踊るのですが、この踊りはかなり疲れます。最初に私たちが躍るのを見ていただいて、今度は皆さんに是非、バッタになったような気持ちで踊っていただければと思います。

・ポロ・リムセ

最後にアイヌのポロ・リムセ、大きい輪の踊りというのをやりたいと思います。これは、儀式やお祭りの最後に必ず踊られる踊りで、皆さん全員で踊ってその日を締めくくるという大切なものです。是非皆さん一緒に踊ってください。

会場の様子（事務局より）

約100人が納まる会場が狭く感じられるほど、多くの参加者が集まる中で、アイヌレブルズのパフォーマンスがはじまりました。聞いたことのない言葉で、見たこともない踊りが披露され、参加者の皆さんは興味津々の様子！鶴になったり、葦になったり...自然や動物を表現して踊る彼らの姿は、私たち自身が自然の一部であることを強く思い起こさせてくれます。

後半では、参加された子どもも大人も一緒になって、踊りを体験しました。まずはヘクリサラリ。何かの参加者が名乗りをあげお盆を取り合う...顔は真剣！上手にステップを踏み、フェイントを入れたり...その様子がおかしくて、会場からは大きな笑いと拍手が。今度はバッタキウポポ。中腰になって両腕を後ろに振り上げながら足を高くあげ歩き回る。20人ほどが一緒に踊りましたが、踊り終わると息が上がっていました。最後が、ポロ・リムセ。全員で大きな円を描き、回りながら踊りました。自然と笑みがこぼれ、踊り終わった瞬間、どこからともなく全員で拍手喝采！まるで、この時間をともに過ごしたことを感謝しあうようでした。

自然とのつながり、人とのつながり、そしてみんなで楽しく時を過ごすこと...日頃私たちが見過ごしている“人間”として大切なこと...それを思い起こさせる不思議な力がアイヌの踊りや文化にはあるのかもしれない。

興味をもたれた方は、以下HPをご覧ください。アイヌレブルズの活動や写真の掲載がされています。

アイヌレブルズ HP:<http://www.ainurebels.com/>